東京地方裁判所

裁判員等経験者との意見交換会を行いました

令和6年12月5日、裁判員等経験者6名と法曹三者（裁判官、検察官、弁護士）との意見交換会を行いました。

今回は、「量刑評議の在るべき姿とそのために必要な審理」をテーマに、ご意見やご感想を伺いました。

●量刑について、評議が始まるまでに自分なりの意見を持つことができたか。

審理が終わった時点で、自分の中で具体的な数字まではイメージできていなかったが、評議における議論や裁判官からの説明等を通じて、最終的に自分の意見を持つことができた。

裁判員からも質問できたので疑問点を解消でき、量刑評価する上で重要な点がどこかについて自分なりの意見は持てた。

●量刑の決め方に関する考え方について、十分理解できたか。

量刑の考え方は十分に理解できた。裁判官の説明によって、証拠上認められる範囲で考えなければいけないということをよく理解できた。

量刑の決め方を理解できたかについては、微妙なところがある。過去の傾向と感情のどちらを重視して決めればいいのかが難しかった。

評議の中で、過去の似たような事案を見たり、犯罪を犯した環境等について説明を受けて理解するに至り、裁判官に噛み砕いて説明していただいて、答えにたどりついていった。

説明の内容は、十分に理解できた。量刑データベースのグラフの分類やデータの件数がもう少し詳細なものの方がいいのではないかという気がした。

●同種事案の量刑に関する過去の資料は、量刑を考える上で参考になったか。

示されたグラフや検察官と弁護人の意見をベースに考えていたが、裁判官から細かい事例を見て考えることも必要という説明もあり、考え方を改めて結論を導き出せたと思う。

グラフは、具体的にどのくらいの刑にするかを考える上で参考になったが、具体的な事例を見たときに求刑が長すぎるのではないかという意見が出た。グラフに加えて、具体的な事例を見たことが参考になった。

●これから裁判員になる方へのメッセージ

裁判員制度は学校で習って以来だったが、やってみて思ったより裁判員の意見が反映されることに気が付いた。予定を押してでもぜひ参加すべきであると思う。

犯罪をしてはいけないという自覚が改めて生まれた。ぜひ参加して、犯罪の重さを理解していただきたい。

裁判員制度は知らなかったが、裁判に関心を持つきっかけになり、いい勉強になった。決して無駄な時間ではないので、ぜひ勇気を持ってやっていただきたい。

皆それぞれの生活する環境が常識となると思うが、裁判員制度に参加することで、それぞれの常識が異なることを認識できる。また、犯罪の抑止力にも絶対になる。何歳であろうが、経験すべきだと思うので、もっと積極的に募集すべきと思う。

司会裁判官

刑罰は、裁判の公平性を意識しつつ、裁判員の皆様の感覚を十分反映して決められることが大切だと考えています。そのため、裁判員の皆様が、ふだん経験しない量刑判断について、意見をしっかり持てるよう様々な工夫を試みています。今回、経験者の皆様から頂いたご意見を生かし、より適切で充実した裁判員裁判の実現に向けて、法曹三者一同、努力してまいります。